＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

平成２０年度　評価委員会

平成２１年３月１２日（木）に開催した。平成１８～２０年度の取組に関して、学生に対する教育効果及び地域の活性化への寄与等について評価を行った。
「学生に対する教育効果」については、参加学生数は、ものづくり、まちづくりプロジェクト全体で平成１９年度は１８１名、平成２０年度は２２６名で学生の参加が進展したと言える。学生自身の自己点検として実施したアンケート結果では自主性、責任感、社会貢献等について肯定的回答が約７０％程度と多数であった。また、低学年を指導した学生の回答では、低学年を指導する体験を通じて課題解決力、プロジェクトマネージメント能力について肯定的意見が約７０％であった。このように、地域連携プロジェクト型ものづくり活動の教育効果がみられたと考えられる。また、異学年グループ活動による体験学習の効果も確認できた。本取組の「学生の地域連携プロジェクト型ものづくり活動」は有効性のある新しい教育システムと考えられる。

「地域の活性化への寄与」については、「地域ものづくりコーディネーター」の活躍により、出前活動（小中学生対象）は平成１９年度２５件、平成２０年度は３３件となり、小中学校と新居浜高専の間で連携が進展し、「実のあるネットワーク作り」がほぼ形成されてきたと評価された。
まちづくりの３プロジェクトについては、ロボット製作、システム製作等の成果物が得られ、地域へのサポートとして高く評価された。成果物について学生のプライドを実現・顕彰する点については卒業研究として認めており、また、学生アンケートでは自主性、責任感、社会貢献の意識が増したとの結果が出ており、一定のプライドの実現・顕彰が達成されたと考えられる。また、製作過程での地域の参加については、製作過程で適宜参加していただき、提案、意見を取り入れながら製作を進めた。

課題としては、まず、出前時間帯の調整に課題があった。課外活動の制約があり、今後は正課に取り入れることを検討すべきである。 異学年の参加・連携の推進については、ものづくり活動では教育効果があったと見られるが、まちづくり活動ではプロトタイプ製作等卒業研究となったが、低学年の参加については検討課題である。
現代ＧＰ終了後の自主的な活動継続であるが、小中学校への出前活動、実技研修会活動についてはものづくり教育支援センター、高度技術教育研究センターが中心となって継続していくこととなった。また、材料費等の確保、教職員、補助学生の移動手段の確保も今後の検討課題である。まちづくりのプロジェクトについては、各担当教員が地域と連携してフォローを行っていく。さらに、タスクフォースによりＮＥＸＴ　ＧＰにチャレンジするべく検討を進めている。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊